

27. 広報委員会

広報委員長 阿戸 学

概要

広報委員会は、国立感染症研究所の研究活動等を広く社会に公表し、理解を得ることにより開かれた研究所とすることを目的として、広報活動に関する業務を遂行している。また、広報委員会の業務を円滑に遂行するために、各部・センター・省令室から委員一名を選出し、戸山庁舎および村山庁舎でそれぞれ、広報運営委員会を組織している。広報委員会の業務を支援するために、委員の他に、再任用職員1名が委員会業務をおこなっている。委員会の庶務は調整課で処理される。

広報委員会の活動内容は以下の通りである。

- (1) 研究所概要(パンフレット、広報ビデオ、インターネットホームページを含む)等の作成およびその更新・改定の実務。
- (2) 研究所一般公開の企画・運営に関わる実務。
- (3) 市民向けセミナー「知の市場」の企画・運営に関わる実務。
- (4) 研究所見学・研修ならびに出前授業、および取材対応に関わる業務。
- (5) その他広報に関すること。

広報委員会で実施された業務の概要は以下のとおりである。

1. 感染研村山庁舎一般公開
2. 感染研戸山庁舎一般公開
3. 市民向けセミナー「知の市場」
4. 武蔵村山市立雷塚小学校出前授業
5. しのめ自治会夏祭りでの感染研ブース設置
6. サイエンスアゴラ出展(大阪市立大学との共催)

業績

1. 感染研村山庁舎一般公開

村山庁舎近隣住民、とくに小・中学生およびその保護者を対象とするため、地域学童の自由研究に参考になるものが望ましいと考え、7月28日(土)13:00-17:00の開催とした。村山庁舎広報運営委員会を新設し、血液・安全性研究部斎藤益満実行委員長の元、佐賀県の協力とともに、一般公開の企画運営を行った。113名の感染研職員等がスタッフとして参加し、パネル展示(感染研の歴史、日本近代医学史、感染研業務(国家検定)、抗HIV薬、抗インフルエンザ薬、病原体の種類、BSL4実験室)、サイエンスカフェ、手洗い実習、病原体写真展、ゲーム、模型工作、バイオセーフティラボ体験、バイアル瓶巻締体験、病原体&感染細胞観察、研究者体験(Green Scientist Club企画)、血液当てクイズ、スタンプラリーを実施した。また、特別企画として、感染症基礎知識セミナーを実施し3名の専門家が講演をおこなった。台風接近の中、16:50で終了とした。来場者は287名に達し、来場者アンケートの結果からは、概ね好評であることが判明した。

2. 戸山庁舎一般公開

戸山庁舎一般公開は、平成22年度に企画の見直し等を行って以来、9月末または10月初旬に開催されており、継続性と来場者への浸透を図るため、9月29日(土)10:00-17:00の開催とした。品質保証・管理部作道隆実行委員長の元、戸山庁舎ならびにハンセン病研究センターで戸山庁舎広報運営委員会を再組織し、一般公開の企画運営を行った。170名の感染研職員等が参加し、パネル展示(動物由来感染症、薬剤耐性菌、病原体の種類、感染研業務(国家検定・国際協力)、ハンセン病)、講演、感染症クイズ、サイエンスカフェ、手洗い実習、病原体写真展、ゲーム、模型工作、病原体・昆虫標本展示、バイオセーフティラボ体験、実験体験コーナー(Green Scientist Club企画)、ラボ見学、感染症映画、生き物展示、スタンプラリーを実施した。来場者は396名に達し、来場者アンケートの結果からは、概ね好評であることが判明した。特筆すべき事項として、厚生労働省肝炎総合対策推進国民運動事業「知って、肝炎」プロジェクトと共催、佐賀県、Softbankの協力の元で、知って肝炎プロジェクトスペシャルサポーターである田辺靖雄氏が来場し、肝炎検査の啓発および肝炎クイズを行った。またNHK首都圏ニュースで感染研一般公開の様子が放送された。

3. 市民セミナー「知の市場」

「知の市場」と共催で、週1回2時間、15コマの感染症総合管理1c「感染症との戦いー現在問題となっている感染症」(4月-7月)、および感染症総合管理1d「感染症対策〜ワクチンを中心に」(9月-12月)を開催した。感染研職員のべ30名が講師としてそれぞれ1コマを担当した。受講者数は、感染症総合管理1cが27人、感染症総合管理1dが22人であった。講義の出席、小レポートの提出、及び所長による最終レポートの評価に基づき成績をつけ、それぞれ1cで9人、1dで16人に修了証を授与した。部長会で市民セミナーのあり方を検討した結果、「知の市場」との共催市民セミナーは本年度限りで一旦終了することとなった。

4. 武蔵村山市立雷塚小学校出前授業

雷塚小学校からの「病気の予防に関する授業」依頼に基づき、雷塚小学校理科室において、平成30年11月6日に、6年生を対象とした授業2コマを実施した。講師はインフルエンザセンター渡邊真治室長が、「インフルエンザ」について講義、鶏卵観察の実習を行った。講師の他に、6名の研究職員・2名の事務職員が観察のサポートとして参加した。

終了後、授業に参加した児童全員および感想文を受取り、好評であったことが伺えた。

5. しのめ自治会夏祭りブース出展

広報委員会

7月21日(土)武蔵村山市大南公園において、所長が来賓として参加することに伴い、感染研としてブースを出展した。広報委員会から3名、業務管理課から4名が参加し、7月28日に行われる予定の一般公開の宣伝、パズル等による感染研の紹介と感染症に関する啓発活動を行った。

6. サイエンスアゴラ出展

科学技術振興機構(JST)が主催する全国規模の科学コミュニケーションであるサイエンスアゴラ(開催地:東京お台場地域、11月10-11日)に、感染症への高まる注目に対して、「微生物リテラシー」の涵養を図るという目的で、大阪市立大学が中心となって出展した「バイキンズワールド 2018」に共催として参加した。感染症の予防法・治療法、身近な感染症、耐性菌などについての解説を掲載したパネル展示、タブレットを使った感染症クイズやゲーム、病原体の写真と映像の展示を行った。